

平成29年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

| | |
|-------|------------|
| 区 名 | 淀川区 |
| 学 校 名 | 大阪市立三津屋小学校 |
| 学校長名 | 豊岡真実 |

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成29年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育局では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育局の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準向上の観点から、児童の学力や学習状況を継続的に把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

- (1) 教科に関する調査（国語、算数）
 - ・主として「知識」に関する問題（A問題）
 - ・主として「活用」に関する問題（B問題）

(2) 質問紙調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・大阪市立三津屋小学校では、第6学年67名

平成29年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

平成29年度学力調査では、国語、算数ともに知識に関するA問題、活用に関するB問題のいずれも、平均正答率が全国及び大阪市を下回った。特に、B問題では、その差が16.5ポイント～16.9ポイントと大きい。また、平均無回答率は、A問題で全国、大阪市平均と同等または下回っているものの、B問題では、やはり全国、大阪市を上回っており、特に国語Bでは、大阪市を1.5ポイント上回っている。

分析から見てきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕日々の漢字学習の積みかさねの成果として、漢字の読みで全国平均を上回った問題があった。しかし、その他では、問題文をしっかり読み込めていないために、問題の意図を明確に理解できず、選択肢の中に出てきた言葉だけを捉えて安易に回答してしまっているものも多く見られた。また、長文の問題文全文の前後関係が理解できていないために、回答に必要なポイントの一部しかとらえられていないものもあった。全体に記述式の問題で、無回答率が高い。また、質問紙において回答時間が十分だったと回答している割合が全国・大阪市と比べて高いことから、粘り強く読み、考えることをあきらめてしまっている可能性もうかがえる。

〔算数〕基本的な四則計算など、全国・大阪市で正答率が6割を超える問題でも本校の正答率は20～30ポイント低い問題が見られる。また、問題場面を式に表すことや、平面図形や立体の性質の理解、資料の適切な分類整理、数量関係の考察と一般化、実験結果の数理的な処理、資料の整理と表現などの問題で、全国・大阪市を13～30ポイント下回った。中には、誤答例にない回答をしている児童の割合が全国・大阪市に比べて2倍近く高い問題も見られることから、問題で何を問われているのかということ自体が捉えられていない可能性がある。いずれの問題も、教科書よりも情報量が多い問題であったり、出会ったことのない問題場面であったりするためであると考えられる。

質問紙調査より

「学校に行くのは楽しい」に「そう思う」と回答している児童の割合は61.4%で全国・大阪府を上回っている。「朝食を毎日食べている」に対して肯定的に回答している児童は92.8%で高く、「毎日同じ時間に寝ていますか」に「している」と回答した児童の割合は34.3%で全国・大阪府と比較して4ポイント以内の差であり、いずれもこれまで本校で健康教育に力を入れてきた成果であると考えられる。また、「国語の学習が好きだ」と回答する児童の数が全国を上回っている。一方、自分たちで課題を立て解決する主体的な授業の実施について、肯定的な回答をしている児童の割合は、全国より約25ポイント下回っている。また、「計画的に家庭学習を行っている」に肯定的な回答をした児童の割合は32ポイントで全国を約30ポイント下回っており、授業改善、家庭学習の定着が引き続き課題である。

今後の取組

引続き、「3つの学bee」や「waku×2.com-bee」を取り入れた授業改善を全ての学級・全ての教科で実践していくとともに算数科を中心とした授業研究を深めていく。また、基礎的基本的な学力の定着のため、家庭学習やスキマを活用した繰り返し学習に取り組む。また、問題文を理解し、複数の情報を適切に処理し総合的に判断する力を育てるため、様々な文章に触れる読書の習慣化を進めるとともに、教材データ配信等を活用して、授業や家庭学習で様々な問題場面に触れる機会を設定する。